

東京都新宿区高田馬場4丁目1番9号
公益財団法人 国際文化カレッジ
理事長 品川 恵保

平成29年度事業報告

1 平成 29 年度事業報告

I 公 1：通信教育およびこれに関連する芸術、緑、ビジネス等の継続的教育・育成事業

[1] 各事業（公 1-1～公 1-4）の連携

当年度は、公 1 の事業全体の連携を図るために、総合写真展（公 1-3）の親睦パーティー会場や軽井沢ギャラリー館（公 1-4）に、公 1-1 としての通信教育講座の受講案内書を設置して、その普及を試みた。また、フォトマスター検定（公 1-2）においては、結果通知の際に写真関連の通信教育講座（公 1-1）や総合写真展（公 1-3）の周知を行い、知識の習得の機会や、作品発表の機会を与えるなどにより、各事業（公 1-1～公 1-4）の連携、連動を図った。

[2] 公 1-1：通信教育およびこれに関連するアセスメントテスト

定款第 4 条（事業）第 1 項第（1）号「自動車技術、園芸・植物、美術・芸術、職業指導など各種通信教育」、および同第（2）号「第 1 号に掲げる通信教育の分野に関する研究」に基づき、通信教育講座およびアセスメントテスト（HOSMAT：ホスピタリティ・マインド診断）の事業を以下の通り行った。なお、通信教育講座の普及活動における本年度の受講生（入学者）総数は、募集予定人数 1,590 人に対して結果は 969 人、アセスメントテスト（HOSMAT：ホスピタリティ・マインド診断）は、海外からの Web システム干渉などが発覚し、トラブルを避けるためサーバーを引き上げたため、業務を行うことができず、受診人数は 0 人であった。

（イ）通信教育講座について

1. 入学者、退学者および修了者の総数

文部科学省認定講座群においては、募集予定人数 410 人に対して本年度の入学者数は 303 人で、計画した人数に達しなかった。また、同退学者および修了者数等は下表の通りであった。

課程名	年度当初	年度間の異動			年度末
	受講者数	入学者数	中退者数	修了者数	受講者数
（合 計）	131	303	142	170	122
家庭園芸講座	33	62	23	40	32
自動車講座	16	101	42	60	15
総合盆栽講座	0	0	0	0	0
造園講座	0	0	0	0	0
オートバイ講座	11	11	8	6	8
ハイキングとカメラ技法講座	1	0	0	1	0
庭木と果樹の手入れ講座	6	15	6	8	7
庭の工作物手作り講座	2	3	1	1	3
写真作品創作塾	22	22	16	7	21
植物医講座	26	45	22	23	26
庭師入門講座	10	10	6	6	8
美術品鑑賞鑑定入門	4	34	18	18	2

文部科学省認定講座に準じて運営するビジネス関連を中心とする講座群においては、募集予定人数 1,180 人に対して本年度の入学者数は 666 人で、計画した人数に達しなかった（当初の入学者数 423 人を見込んでいたレタリング講座の不振も響いた）。また、同退学者および修了者数等は下表の通りであった（各講座、ホスピタリティ・マインド診断付を含む合計）。

課程名	年度当初	年度間の異動			年度末
	受講者数	入学者数	中退者数	修了者数	受講者数
合計	343	666	349	309	351
レタリング講座	3	48	20	2	29
A. 実践ボールペン字	14	19	4	15	14
B. ホスピタリティで業績アップ	7	18	15	10	0
C. トラブル対応力でチャンスに変える	13	23	7	17	12
D. コーチングで人を動かす	19	44	15	32	16
E. 説得力・交渉力を行使する	4	13	9	3	5
F. コミュニケーションで自信と信頼を得る	44	50	40	24	30
G. アサーション表現力で魅了する	38	27	13	17	35
I. 問題解決能力で現状を打破する	11	17	10	6	12
J. リーダーシップを発揮する	28	24	9	17	26
K. 論理的思考で実現させる	9	58	36	21	10
L. 発想力・創造力でビジョンを練り上げる	26	19	10	7	28
M. プレゼンテーションで成功する	11	31	29	2	11
N. 心理学でビジネスの成果を生む	29	125	67	61	26
O. 図解思考がクリアにする	28	21	16	4	29
P. 情報を成果に育てる	1	5	0	5	1
Q. 思わず誰かに話したくなるビジネス雑学	1	1	1	0	1
R. 眠っている9割を刺激する脳の活用法	33	59	11	38	43
S. 誰でもできる時間の超活用法	5	7	5	4	3
T. 誰もが納得、数字の力	3	19	12	6	4
U. 実効性のあるキャリアデザイン	0	4	0	3	1
V. 新・人間関係のビタミン	2	1	2	0	1
W. 強いビジネス組織をつくる	4	1	1	1	3
X. コンサル型ビジネスの達人になる	2	4	2	2	2
Y. ビジネスで恥をかかない国語学	8	28	15	12	9

2. 普及活動について

新聞や雑誌の部数減少等に伴う近年のこれら媒体による受講生募集効率の大幅な低下を受けて、文部科学省認定講座の自動車講座や写真作品創作塾、美術品鑑賞・鑑定入門講座などについては、インターネットのリスティング広告も導入して普及活動を引続き行った。この方法によると経費対効果は向上するものの、まだまだ受講生を大幅に増加させる段階にまでは至っていない。しかしながら、時代の趨勢としてこの手段により普及活動を展開する方向性は変わらないので、さらに効果が出るよう引き続き研究を重ねて行くものとする。園芸、植物関連講座では、肥料・農薬・種苗メーカーを始めとする園芸・農業関連会社やホームセンターなどの職域における受講需要につき、今後もこの分野への普及活動の可能性を追求して行くものとする。

自動車講座や家庭園芸講座では、矯正施設における社会復帰等に向けた教育を目的としての採用が、当年度も継続して行われた。これにより、当年度も該当者の社会復帰等に向けた教育支援に資することができた。

写真作品創作塾については、受験者が安定的に推移しているフォトマスター検定事業（公1-2）と連携して、受験者の学習に資する講座としての普及活動や、総合写真展（公1-3）の参観者に対する普及活動も行った。

文部科学省認定講座に準じて運営するビジネス関連を中心とする講座群においては、これらを採用する企業や地方公共団体などが着実に増加してきた環境を受けて、本年度の受講生数も比較的安定しており、文部科学省認定講座群と合わせて幅広い領域における生涯学習、社会教育を推進することができた。次年度も継続してさらなる普及活動を行っていく。

3. テキスト内容の見直し・改訂等

ビジネス関連を中心とする講座群のうち、「アサーション表現力で魅了する」「心理学でビジネスの成果を生む」「眠っている9割を刺激する脳の活性化」の計3講座は、本年度に再版発注の時期を迎えたため、内容の見直し・改訂を行い、改訂版で引き続き開講した。

4. 教材テキスト製版デジタル化の実施

前年度に引き続き、長年の修正で陳腐化した製版フィルムをデジタル化（データ化）する「教材製版デジタル化費用積立資金」（平成26年度から平成30年度までの5か年計画）の実施についてだが、本年度は以下の通り、実施した。

①「庭木と果樹の手入れ講座」の費用・3,469,240円。

②「植物医講座」の費用・4,061,528円。

③「庭の工作物手作り講座」の費用・2,088,720円。

以上3点の費用合計・9,619,488円を、本年度の「通信教育教材製版デジタル化積立資金」より取崩し、費消した。本計画最終年度となる次年度は、「家庭園芸講座」の費消他、過年度からの諸経費を精算する予定である。

5. 学習指導

学習指導における学習指導者（専門家）および教務責任者は下表の通りに組織して、各講座とも充実した添削指導を行い、学習途上における質問（質疑応答）に対しては詳細・的確・迅速に対応して受講生の学習意欲の向上を図った。

[文部科学省認定講座群の学習指導者および教務責任者]

講座名	学習指導者	教務責任者
家庭園芸講座	計3名 山形大学農学部卒：1名／ 日本大学生物資源科学部卒・ 2級造園施工管理技士：1名／ 東京農業大学農学部卒：1名	事務局職員 1名
自動車講座	計3名 元読売江東理工専門学校講師：1名／ 読売自動車大学校専任教員：1名／ 中央大学理工学部卒：1名	事務局職員 1名
総合盆栽講座	計2名 山形大学農学部卒：1名／ （株）花門フラワーゲート技術者・ 2級造園施工管理技士：1名	事務局職員 1名
造園講座	計3名 造園設計事務所主宰者：1名／ （株）花門フラワーゲート技術者・ 2級造園施工管理技士：1名／ 東京農業大学農学部卒：1名	事務局職員 1名
オートバイ講座	計3名 読売自動車大学校専任教員：1名／ 三井住友海上火災保険（株）アジャスター・ 元読売江東理工専門学校講師：1名／ バイクジャーナリスト：1名	事務局職員 1名
ハイキングとカメラ 技法講座	計3名 写真家：1名／ 元国立科学博物館付属自然教育園研究官：1名／ 国立科学博物館付属自然教育園研究官：1名	事務局職員 1名

講座名	学習指導者	教務責任者
庭木と果樹の手入れ講座	計4名 造園設計事務所主宰者：1名／ 2級造園施工管理技士：1名／ 山形大学農学部卒：1名／ 東京農業大学農学部卒：1名	事務局職員 1名
庭の工作物手作り講座	計3名 造園設計事務所主宰者：1名／ 2級造園施工管理技士：1名／ 東京農業大学農学部卒：1名	事務局職員 1名
植物医講座	計3名 東京農業大学農学部卒：2名／ 千葉大学環境健康フィールド 科学センター・農学博士：1名	事務局職員 1名
写真作品創作塾	計3名 写真家：3名	事務局職員 1名
庭師入門講座	計3名 1級造園施工管理技士：1名／ 日本大学生物資源科学部卒・ 2級造園施工管理技士：1名／ 東京農業大学農学部卒：1名	事務局職員 1名
美術品鑑賞・鑑定入門講座	計4名 武蔵野美術大学卒：1名／ 美術評論・鑑定家：1名／ 絵画保存修復工房代表：1名／ 陶磁資料館館長補佐：1名	事務局職員 1名
文部科学省認定講座群の学習指導者および教務責任者の変更について 本年度は特に変更ありませんでした。		

[文部科学省認定講座に準じて運営する講座群の学習指導者および教務責任者]

講座名	学習指導者	教務責任者
レタリング講座	計2名 レタリング技能検定試験委員：2名	事務局職員 1名
実践ボールペン字講座	計2名 大東文化大学日本文学科卒・硬筆・毛筆書家：1名／法政大学文学部書道科履修・硬筆・毛筆書家：1名	事務局職員 1名
ホスピタリティで業績アップ講座	計2名 早稲田大学大学院商学研究科博士課程修了・ホスピタリティバンク研究所代表：1名／ホスピタリティバンク研究所主任研究員：1名	事務局職員 1名
トラブル対応力でチャンスに変える／コーチングで人を動かす／説得力・交渉力を行使する／コミュニケーションで自信と信頼を得る／アサーション表現力で魅了する／問題解決能力で表現を打破する／リーダーシップを発揮する／論理的思考で実現させる／発想力・創造力でビジョンを練り上げる／プレゼンテーションで成功する／心理学でビジネスの成果を生む／図解思考がクリアにする／情報を成果に育てる／思わず誰かに話したくなるビジネス雑学／眠っている9割を刺激する脳の活性化法／誰でもできる時間の超活用法／誰もが納得、数字の力／実効性のあるキャリアデザイン／新・人間関係のビタミン／強いビジネス組織をつくる／コンサル型ビジネスの達人になる／ビジネスで恥をかかない国語学	計2名 慶應義塾大学商学部卒・編集企画制作事務所エムスリー代表：1名／慶應義塾大学文学部社会学科卒・エム・エフ・ジー(株)顧問：1名	事務局職員 2名

添削指導の実施延べ回数は全講座の合計で3,215件、質疑応答は全講座の合計

で177件であった（細目は下表）。

なお、企業・団体における受講に対しては、人事部などの統括部署宛に、受講生全員の学習進度や成績などを細かく報告するサービスも例年同様に実施した。

スクーリング（面接指導）については、テキストや添削指導だけでは教授しにくい学習内容を中心として実施した。園芸関連のスクーリングは、講師の都合により本年度は中止とした。

[文部科学省認定講座群の添削指導状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数	受けた者の平均回数
(合 計)	2,436	20.0	307	7.9
家庭園芸講座	532	16.6	63	8.4
自動車講座	1,239	82.6	99	12.5
総合盆栽講座	0	0.0	0	0.0
造園講座	0	0.0	0	0.0
オートバイ講座	62	7.8	14	4.4
ハイキングとカメラ技法講座	1	0.0	1	1.0
庭木と果樹の手入れ講座	70	10.0	12	5.8
庭の工作物手作り講座	5	1.7	1	5.0
写真作品創作塾	108	5.1	25	4.3
植物医講座	229	8.8	45	5.1
庭師入門講座	55	6.9	12	4.6
美術品鑑賞鑑定入門	135	67.5	35	3.9

[文部科学省認定講座に準じて運営する講座群の添削指導状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数	受けた者の平均回数
(合 計)	779	2.2	656	1.2
レタリング講座	22	0.8	22	1.0
A.実践ボールペン字	60	4.3	19	3.2
B.ホスピタリティで業績アップ	18	18.0	24	0.8
C.トラブル対応力でチャンスに変える	40	3.3	24	1.7
D.コーチングで人を動かす	55	3.4	46	1.2
E.説得力・交渉力を行使する	9	1.8	12	0.8
F.コミュニケーションで自信と信頼を得る	43	1.4	64	0.7
G.アサーション表現力で魅了する	24	0.7	30	0.8
I.問題解決能力で現状を打破する	7	0.6	16	0.4
J.リーダーシップを発揮する	32	1.2	26	1.2
K.論理的思考で実現させる	63	6.3	57	1.1
L.発想力・創造力でビジョンを練り上げる	17	0.6	17	1.0
M.プレゼンテーションで成功する	12	1.1	31	0.4
N.心理学でビジネスの成果を生む	113	4.3	128	0.9
O.図解思考がクリアにする	12	0.4	20	0.6
P.情報を成果に育てる	7	7.0	5	1.4
Q.思わず誰かに話したくなるビジネス雑学	8	8.0	1	8.0
R.眠っている9割を刺激する脳の活性化法	104	2.4	49	2.1
S.誰でもできる時間の超活用法	15	5.0	9	1.7
T.誰もが納得、数字の力	46	11.5	18	2.6
U.実効性のあるキャリアデザイン	8	8.0	3	2.7
V.新・人間関係のビタミン	2	2.0	2	1.0
W.強いビジネス組織をつくる	3	1.0	2	1.5
X.コンサル型ビジネスの達人になる	7	3.5	4	1.8
Y.ビジネスで恥をかかない国語学	52	5.8	27	1.9

[文部科学省認定講座群の質疑応答状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数
(合 計)	164	2.9	57
家庭園芸講座	18	1.4	13
自動車講座	100	5.0	20
総合盆栽講座	0	0.0	0
造園講座	0	0.0	0
オートバイ講座	6	3.0	2
ハイキングとカメラ技法講座	0	0.0	0
庭木と果樹の手入れ講座	7	2.6	3
庭の工作物手作り講座	0	0.0	0
写真作品創作塾	5	2.1	2
植物医講座	16	2.1	8
庭師入門講座	5	2.5	2
美術品鑑賞鑑定入門	7	1.2	6

[文部科学省認定講座に準じて運営する講座群の質疑応答状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数
(合 計)	13	1.0	13
レタリング講座	1	1.0	1
A. 実践ボールペン字	0	0.0	0
B. ホスピタリティで業績アップ	0	0.0	0
C. トラブル対応力でチャンスに変える	3	1.0	3
D. コーチングで人を動かす	1	1.0	1
E. 説得力・交渉力を行使する	0	0.0	0
F. コミュニケーションで自信と信頼を得る	0	0.0	0
G. アサーション表現力で魅了する	0	0.0	0
I. 問題解決能力で現状を打破する	0	0.0	0
J. リーダーシップを発揮する	1	1.0	1
K. 論理的思考で実現させる	0	0.0	0
L. 発想力・創造力でビジョンを練り上げる	0	0.0	0
M. プレゼンテーションで成功する	0	0.0	0
N. 心理学でビジネスの成果を生む	0	0.0	0
O. 図解思考がクリアにする	0	0.0	0
P. 情報を成果に育てる	2	1.0	2
Q. 思わず難かに話したくなるビジネス雑学	0	0.0	0
R. 眠っている9割を刺激する脳の活用法	1	1.0	1
S. 誰でもできる時間の超活用法	0	0.0	0
T. 誰もが納得、数字の力	0	0.0	0
U. 実効性のあるキャリアデザイン	0	0.0	0
V. 新・人間関係のビタミン	2	1.0	2
W. 強いビジネス組織をつくる	1	1.0	1
X. コンサル型ビジネスの達人になる	0	0.0	0
Y. ビジネスで恥をかかない国語学	1	1.0	1

[スクーリング（面接指導）の実施状況]

課程名	実施回数	延日数	延参加数
(合計)	1	1	17
家庭園芸講座	—	—	—
総合盆栽講座	—	—	—
写真関連講座	1	1	17
庭木と果樹の手入れ講座	—	—	—

(ロ) アセスメントテスト (HOSMAT：ホスピタリティ・マインド診断) の単独受診

1. 受診者数およびホスピタリティ社会構築に向けた活動

精神性・倫理性・社会性などの詳細な分析と診断結果の提示を通じて、個々人はもとより、組織としてもこれらの強み、弱みを認識し改善、改革して行く道標として、また、個人情報や消費者保護、偽装問題をはじめとして、社会の一員としてはもとより、各組織においても極めて高いホスピタリティ・マインドが求められる時代にあって、EQ（情動指数）、SQ（精神指数）、MQ（倫理指数）の高い個人の養成や、組織における人材の適正配置、適正採用等につなげることができる本アセスメントテストであるが、その需要は低く、企業・団体の受講が多いビジネス系の通信教育講座に併設したコースは、平成26年度・15件、平成27年・13件、平成28年度・5件、平成29年度・0件である。また、本テストのみを単独で受診できる「単独受診コース」は、平成26年度に18件の申込みを得たが、平成27年度、平成28年度、平成29年度はいずれも、申込み・0件が続いている。以上の状況を踏まえ、次年度の本テストの実施は停止する予定である。

2. 専門家の関与

本アセスメントテストに関わる専門家は、前年度と同様、「ホスピタリティで業績アップ講座(旧名称：超CS!ホスピタリティ・マインド講座)」の学習指導者であるホスピタリティバンク研究所の専門家2名に就任いただいたが、解析等の実務はなかった。

[4]公1-2：通信教育に関連する知識・技能の検定

定款第4条（事業）第1項第（4）号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する知識・技能の検定」に基づき、当法人の写真関係の通信教育講座（写真作品創作塾、ハイキングとカメラ技法講座）に関連する、第15回フォトマスター／写真とカメラの実用知識検定（略称：フォトマスター検定）を、文部科学省後援により以下の通り実施した。

（イ）試験実施日

平成29年11月19日・日曜日（通常日程試験）

及び11月20日・月曜日（特別日程試験）

及び11月21日・火曜日（特別日程試験）

（ロ）試験会場

下記、各都道府県の一般会場及び団体受験会場（準会場）の、全国130箇所において実施した。

No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日
1	札幌市	11月19日	27	滋賀県	11月19日	53	D103	11月19日	79	E212	11月20日	105	F306	11月21日
2	青森県	11月19日	28	京都府	11月19日	54	D104	11月19日	80	E213	11月20日	106	F307	11月21日
3	岩手県	11月19日	29	大阪府	11月19日	55	D105	11月19日	81	E214	11月20日	107	F308	11月21日
4	宮城県	11月19日	30	大阪2	11月19日	56	D106	11月19日	82	E215	11月20日	108	F309	11月21日
5	秋田県	11月19日	31	兵庫県	11月19日	57	D107	11月19日	83	E216	11月20日	109	F310	11月21日
6	山形県	11月19日	32	奈良県	11月19日	58	D108	11月19日	84	E217	11月20日	110	F311	11月21日
7	福島県	11月19日	33	和歌山	11月19日	59	D109	11月19日	85	E218	11月20日	111	F312	11月21日
8	茨城県	11月19日	34	鳥取県	11月19日	60	D110	11月19日	86	E219	11月20日	112	F313	11月21日
9	栃木県	11月19日	35	島根県	11月19日	61	D111	11月19日	87	E220	11月20日	113	F314	11月21日
10	群馬県	11月19日	36	岡山県	11月19日	62	D113	11月19日	88	E221	11月20日	114	F315	11月21日
11	埼玉県	11月19日	37	広島県	11月19日	63	D114	11月19日	89	E222	11月20日	115	F316	11月21日
12	千葉県	11月19日	38	山口県	11月19日	64	D115	11月19日	90	E223	11月20日	116	F317	11月21日
13	東京都	11月19日	39	徳島県	11月19日	65	D116	11月19日	91	E224	11月20日	117	F318	11月21日
14	東京2	11月19日	40	香川県	11月19日	66	D117	11月19日	92	E225	11月20日	118	F319	11月21日
15	神奈川	11月19日	41	愛媛県	11月19日	67	D118	11月19日	93	E226	11月20日	119	F320	11月21日
16	新潟県	11月19日	42	高知県	11月19日	68	E201	11月20日	94	E227	11月20日	120	F321	11月21日
17	富山県	11月19日	43	福岡県	11月19日	69	E202	11月20日	95	E228	11月20日	121	F322	11月21日
18	石川県	11月19日	44	佐賀県	11月19日	70	E203	11月20日	96	E229	11月20日	122	F323	11月21日
19	福井県	11月19日	45	長崎県	11月19日	71	E204	11月20日	97	E230	11月20日	123	F324	11月21日
20	山梨県	11月19日	46	熊本県	11月19日	72	E205	11月20日	98	E231	11月20日	124	F325	11月21日
21	長野県	11月19日	47	大分県	11月19日	73	E206	11月20日	99	E232	11月20日	125	F326	11月21日
22	岐阜県	11月19日	48	宮崎県	11月19日	74	E207	11月20日	100	F301	11月21日	126	F327	11月21日
23	静岡県	11月19日	49	鹿児島	11月19日	75	E208	11月20日	101	F302	11月21日	127	F328	11月21日
24	愛知県	11月19日	50	沖縄県	11月19日	76	E209	11月20日	102	F303	11月21日	128	F329	11月21日
25	愛知2	11月19日	51	D101	11月19日	77	E210	11月20日	103	F304	11月21日	129	F330	11月21日
26	三重県	11月19日	52	D102	11月19日	78	E211	11月20日	104	F305	11月21日	130	F331	11月21日

(ハ) 受験者数、合格者数等

写真・カメラに関わる実用知識、技能を客観的に評価認定する検定事業として、当年度は下表の通り、3級～1級の応募者数は6,116人、受験者数は5,496人、合格者数は3,212人の結果であった。なお、受験料は、前年度同様に自主会場（準会場）を設置しての団体受験の場合は10%を、一般会場で受験する団体受験の場合は5%を割り引いて実施した。

受験級	区 分	応募者数	受験者数	合格者数
3 級	個人受験・一般会場	564	495	479
	団体・一般会場受験	89	80	74
	団体・自主会場受験	574	499	420
2 級	個人受験・一般会場	927	838	741
	団体・一般会場受験	376	361	269
	団体・自主会場受験	1,002	918	544
準1級	個人受験・一般会場	737	643	257
	団体・一般会場受験	83	72	18
	団体・自主会場受験	472	440	110
1 級	個人受験・一般会場	675	582	190
	団体・一般会場受験	131	114	24
	団体・自主会場受験	486	454	86
小 計		6,116	5,496	3,212
EX認定コース	(1ジャンル認定)	16	16	19
	(総合認定)	24	24	9
	(追加総合認定)	4	4	1
小 計		44	44	29
合 計		6,160	5,540	3,241

(ニ) 普及活動

各階級の受験者のプロフィールを下表の通りに設定し、一般写真愛好者から写真・カメラ関連業界の従事者に至るまでに機能する検定として、当法人の写真関連通信教育講座の受講生・修了生をはじめ、当法人が開催する総合写真展の出品者・観覧者や全国の写真愛好者、写真・カメラ関連業界など不特定多数の者を対象として、カメラ関係専門誌での広報、関連施設への受験案内書の配布やDM、関係社等への団体受験の広報活動により受験者を募る普及活動を行った。

階級	一般グループ	業界関連グループ
1 級	写真専攻大学生 優秀レベル	メーカー 営業責任者
	写真専門学校生 優秀レベル	販売店 販売責任者
	メーカー等のスクール指導者	プロラボ/総合ラボ 責任者
		写真館 撮影担当
		アシスタントカメラマン
		専門誌編集者
準1級	写真専攻大学生 並レベル	メーカー 営業担当
	写真専門学校生 並レベル	販売店 販売担当
	高校写真部顧問	プロラボ/総合ラボ 従事者
	写真愛好家 歴10年以上	技術・営業担当者
	地域のサークルリーダー	
2 級	中学校写真顧問	メーカー 事務従事者
	高校写真部員	ミニラボ オペレーター
	写真愛好家 歴5～10年	写真館 窓口担当
	メーカー等のスクールメンバー	一般紙誌編集者
	地域のサークルメンバー	各種企業広報担当者
	カメラ機械愛好家	デザイナーアシスタント
	カメラ雑誌愛読者	フリー記者・ライター
3 級	中学写真部員	マスコミ・ジャーナリスト志望者
	趣味愛好家 歴5年未満	D P E 窓口担当者
	撮影機会の多い一般者	(取次店含む)

(ホ) 検定委員等

試験問題の作成、合否判定等に関わる当年度の検定委員は、下表の通りの写真家および写真・カメラ関連メーカー技術者により構成し、資機材の汎用的技術・機能はもとよりメーカー毎の独自の技術や機能等も試験問題に正確に反映させた。また、試験問題について、(一社)日本写真学会の学識経験者による監修も経て、より有意なものとするに努めた。

	氏名等
プロ写真家・ 評論家関係	徳光ゆかり／テラウチマサト／那和秀峻 板見浩史／赤松秀夫／枝常伊佐央／大久保晴功
写真・カメラメ ーカ－技術者 関係	オリンパス(株)：1名／ キヤノンマーケティングジャパン(株)：1名／ (株)タムロン：1名／(株)シグマ：1名／ (株)ケンコー・トキナー：1名／ (株)ニコンイメージングジャパン：1名／ パナソニック(株)：1名／富士フイルムイメージングシステ ムズ(株)：1名／リコーイメージング(株)：1名／ (株)市川ソフトラボラトリー：1名

(ヘ) 成績優秀者の顕彰

検定試験の結果が優秀と認められた団体受験または個人受験については、別に定める選考基準に基づき、以下の通り表彰した。

	団体受験に対して	個人受験に対して
文部科学大臣賞	1 団体	4 名(各級 1 名)
当法人による表彰	最優秀団体賞 1 団体 優秀団体賞 11 団体 人材育成貢献賞 5 団体	最優秀個人賞 8 名 優秀個人賞 48 名 (各級合計)

[5] 公 1-3：写真・水墨画・絵画等の展覧会

定款第4条(事業)第1項第(5)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づき、当法人の通信教育受講生の継続学習の促進や広く一般の美術、芸術文化の普及、振興に寄与する目的で、以下の通りに展覧会を開催した。

(イ) 総合写真展

1. 展示点数等

当年度・第21回展では、審査により入選以上に該当した1,497点の作品を展覧会会場(下記4.)に展示して公開した。

	出品部門	展示作品数
半切サイズ	フィルム写真部門	125
	デジタル写真部門	828
全紙サイズ	フィルム写真部門	65
	デジタル写真部門	479
合 計		1,497

2. 公募活動

前年度同様、当法人の「写真作品創作塾」、「ハイキングとカメラ技法講座」といった写真関連の通信教育講座を中心とする受講生・修了生に対して、写真作品を発表または無料観覧できる機会を提供して継続的学習に資し、同時に当法人が実施するフォトマスター検定の受験者、あるいは当法人が運営する展示館施設の観覧者・利用者を含む不特定多数の者に門戸を開く公募展として、カメラ関係専門誌、案内DM、カメラ関係販売店店頭でのリーフレット配布等の広報活動により作品を募集した。なお、出品希望者に対しては全員に、出品に関わる事項を詳述した当年度の出品要項(出品票付)を事前に送付した。

3. 審査、審査員等

審査員は、実績のある写真家を中心とする以下の専門家で構成し、応募作品

の審査方法、審査基準、授賞等については、「写真・水墨画・絵画等の展覧会管理運営規則」に基づいて運営した。なお、最終審査はその厳正を図るために、出品作品を希望規定サイズ(半切または全紙サイズ)にプリント(紙焼き)した作品により行った。

氏 名	経 歴
川合 麻紀	プロ写真家
徳光 ゆかり	プロ写真家
テラウチマサト	プロ写真家
板見 浩史	写真評論家
丸林 正則	プロ写真家

4. 会期、会場、参観者数等

平成 29 年 12 月 5 日(火)から 12 月 11 日(月)の会期で、東京都美術館・2 階第 3～4 展示室・1 階第 4 展示室(東京都台東区上野公園 8-36)を会場に、写真文化の普及、振興のために入場料を無料として開催した。なお、各作品には、出品者氏名・作品名・授賞名を付して展示・公表し、開催期間中の参観者は 3,765 人であった。

5. 表彰式

表彰式には全国より 231 名の出品者が参加し、平成 29 年 12 月 5 日(火)、午前 10 時より 11 時 45 分の時間帯で浅草ビューホテル(東京都台東区西浅草 3-17-1)において開催した。なお、表彰式への参加は無料とし、付き添いについても席を用意して入場できるように配慮した。

6. 審査結果の公表

審査結果は、入選以上の全展示作品について、氏名・賞名等を記載した「出品目録」を作成して展覧会場で観覧者等に無料配布して公表し、また上位作品については作品写真・氏名・賞名を全国版写真専門誌に掲載して公表した。

(ロ) 日美展「水墨画部門」

1. 展示点数等

日美展の総称の元に開催していた「総合水墨画展」と「日美絵画展」は、当年度より、それぞれ、日美展「水墨画部門」「絵画部門」に統合して、新生第 1 回展として開催した。第 1 回展では、審査により入選以上に該当した 1,023 点の作品を展覧会会場(下記 4.)に展示して公開した。当事業の計画は、前回の展示数をもとに 1,010 点の展示とほぼ同数予測をしたが、臨画の部の大幅出品増により、微増となった。

出品の部		展示作品数
作家の部	F30 号/F20 号/F15 号	135
一般の部	F30 号/F20 号/F15 号/F10 号 /F8 号/F6 号/半切 1/2	588
臨画の部	F10 号/F8 号/F6 号/半切 1/2	249
俳画の部	F8 号/F6 号/色紙	44
無鑑査出品	F50 号/F30 号/F20 号	7
合 計		1,023

2. 公募活動

当法人の美術関連の通信教育講座(美術品鑑賞・鑑定入門講座、レタリング講座)を中心とする受講生・修了生に対して、墨を主体にして描く水墨画作品(類似の俳画作品を含む)を発表または無料観覧できる機会を提供して継続的学習に資し、同時に不特定多数の者にも門戸を開く公募展として、インターネット広告、案内DM、リーフレット配付などにより作品を募集した。なお、出品希望者に対しては全員に、出品に関わる事項を詳述した当年度の出品要項(出品票付)を事前に提示した。

3. 審査、審査員等

当年度の審査員および本展実行委員は以下の水墨画家等専門家で構成し、応募作品の審査、審査基準、授賞等については、「写真・水墨画・絵画等の展覧会管理運営規則」に基づいて運営した。

※当年度は下記 32 名の委嘱審査員のうち、伊藤 昌／大竹 卓／久山 一枝／沈 和年／千葉 玄象／根岸 嘉一郎／藤崎 千雲／松井 陽水／松本 深雪／村山 華風の 10 名の専門家が当番審査員として審査に当たった。

五十嵐 玉俊（水墨画家）／伊藤 昌（水墨画家）／打矢 恵（水墨画家）／畝村 石道（水墨画家）／浦上 義昭（水墨画家）／王 子江（水墨画家）／大竹 卓（水墨画家）／岡原 大華（水墨画家）／岡村 南紅（水墨画家）／川端 豊次（水墨画家）／金 醒石（水墨画家）／久山 一枝（水墨画家）／小林 東雲（水墨画家）／潮見 冲天（水墨画家）／篠原 貴之（水墨画家）／沈 和年（水墨画家）／杉谷 隆志（水墨画家）／高橋 英男（水墨画家）／千野 曜生（水墨画家）／千葉 玄象（水墨画家）／根岸 嘉一郎（水墨画家）／濱中 応彦（水墨画家）／藤崎 千雲（水墨画家）／馬 驍（水墨画家）／松井 陽水（水墨画家）／松本 深雪（水墨画家）／丸山 東子（水墨画家）／村山 華風（水墨画家）／山田 大作（水墨画家）／姚 小全（水墨画家）／吉見 公子（水墨画家）／王俊 宇瀟（水墨画家）

※審査員による審査結果の最終承認等を行う当年度の「実行委員」は以下により組織した。

河野 元昭（静嘉堂文庫美術館館長、東京大学名誉教授、「國華」編集委員）／島尾 新（東京大学文学部美学美術史学科卒、同大学院美術史学専門課程修士課程修了、学習院大学教授）／町田 泰宣（公益社団法人日本南画院会長）／品川 恵保（当法人理事長）

4. 会期、会場、参観者数等

平成 29 年 8 月 10 日から 8 月 19 日の会期で、国立新美術館（東京都港区六本木 7-22-2）を会場に、美術・芸術文化の普及、振興のために入場料を無料として開催した。なお、各作品には、出品者氏名・作品名・授賞名を付して展示、公表し、開催期間中の参観者は 7,252 名であった。

5. 表彰式

表彰式には全国より 203 名の出品者が参加し、平成 29 年 8 月 10 日、午前 10 時より 11 時 30 分の時間帯で東京プリンスホテル（東京都港区芝公園 3-3-1）において開催した。なお、表彰式への参加は無料とし、付き添いについても席を用意して入場できるように配慮した。

6. 審査結果の公表および作品集

審査結果は、入選以上の全展示作品について、氏名・賞名等を記載した「出品目録」を作成して展覧会場で観覧者等に無料配布して公表し、また、入選以上の全作品を掲載した作品集も制作して公表・販売し、当年度は 630 部を発行した。

(ハ) 日美展「絵画部門」

1. 展示点数等

当年度・新生第1回展では、審査により入選以上に該当した1,529点の作品を展覧会会場（下記4.）に展示して公開した。

出品の部		展示作品数
油絵の部	F30号／F20号	241
	F15号／F10号	168
	F8号／F6号／F4号	118
水彩画の部	F30号／F20号	91
	F15号／F10号	142
	F8号／F6号／F4号	208
パステル画の部	F30号／F20号	9
	F15号／F10号	15
	F8号／F6号／F4号	30
色鉛筆画の部	F30号／F20号	20
	F15号／F10号	46
	F8号／F6号／F4号	137
デッサンの部	F30号／F20号	3
	F15号／F10号	10
	F8号／F6号／F4号	34
日本画の部	F30号／F20号	25
	F15号／F10号	21
	F8号／F6号／F4号	21
ちぎり絵の部	F10号	21
	F8号／大色紙	62
絵手紙の部	ハガキ形式／ 巻き手紙形式	107
合 計		1,529

2. 公募活動

当法人の美術関連の通信教育講座（美術品鑑賞・鑑定入門講座、レタリング講座）を中心とする受講生・修了生に対して、油絵・水彩画・パステル画・色鉛筆画・デッサン・日本画・ちぎり絵・絵手紙の各ジャンルの絵画作品を発表または無料観覧できる機会を提供して継続的学習に資し、同時に当法人が運営する展示館施設（軽井沢千住博美術館、および軽井沢ギャラリー館）の観覧者を含む不特定多数の者にも門戸を開く公募展として、案内DMやリーフレット配付、協賛社を窓口とする広報活動等により作品を募集した。なお、出品希望者に対しては全員に、出品に関わる事項を詳述した当年度の出品要項（出品票付）を事前に送付した。

3. 審査、審査員等

当年度の審査員および本展大賞選考委員は以下の画家等専門家で構成し、応募作品の審査、審査基準、授賞等については、「写真・水墨画・絵画等の展覧会管理運営規則」に基づいて運営した。

※「審査員」は以下の通り、部門別に当該分野の専門画家を置き、各部別の審査に当たった。	
油絵の部	板倉 略（画家）／遊馬 賢一（画家）
水彩画の部	西丸 式人（画家）／岸本 庄八郎（画家）
パステル画の部	たのい 俊一（画家）／大枝 隆司郎（画家）
色鉛筆画の部	大枝 隆司郎（画家）
デッサンの部	村松 昌三（画家）
日本画の部	山本 真也（画家）／井坂 洋一（画家）
ちぎり絵の部	早川 美子（ちぎり絵作家）／大森 恭子（ちぎり絵作家）／玉井 祐子（ちぎり絵作家）
絵手紙の部	花城 祐子（絵手紙作家）／森川百合子（絵手紙作家）
※上記の審査員による各部別の審査結果に基づいて、部を横断しての上位優秀作品に授与する賞（全体賞）を選定、決定する当年度の「大賞選考委員」は、以下により組織した。	
川口 紀美雄（画家）／千足 伸行（成城大学教授、画家）／ 中野 淳（武蔵野美術大学名誉教授、画家）／ 永井 龍之介（美術鑑定士他）／品川 恵保（当法人理事長）	

4. 会期、会場、参観者数等

平成 29 年 8 月 10 日(木)から 8 月 19 日(土)の会期で、国立新美術館（東京都港区六本木 7-22-2）を会場に、美術・芸術文化の普及、振興のために入場料を無料として開催した。なお、各作品には、出品者氏名・作品名・授賞名を付して展示、公表し、開催期間中の参観者は 8,722 名であった。

5. 表彰式

表彰式には全国より 304 名の出品者が参加し、平成 29 年 8 月 11 日(金)、午前 10 時より 11 時 30 分の時間帯で東京プリンスホテル（東京都港区芝公園 3-3-1）において開催した。なお、表彰式への参加は無料とし、付き添いについても席を用意して入場できるように配慮した。

6. 審査結果の公表および作品集

審査結果は、入選以上の全展示作品について、氏名・賞名等を記載した「出品目録」を作成して展覧会場で観覧者等に無料配布して公表し、また、入選以上の全作品を掲載した作品集も制作して公表、販売し、当年度は 798 部を発行した。

〔6〕 公 1-4：芸術・自然科学に関する展示館施設

定款第 4 条（事業）第 1 項第（5）号「第 1 号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づき以下の通りに事業を運営した。

（イ）軽井沢千住博美術館

1. 展示作品等

一般の観覧者はもとより、当法人の「美術品鑑賞・鑑定入門講座」、「写真作品創作塾」、「ハイキングとカメラ技法講座」、「レタリング講座」といった美術・芸術関連の通信教育講座を中心とする受講生・修了生の継続的学習に資し、あるいは当法人が開催する「日美展（水墨画部門、絵画部門）」、「総合写真展」の出品者、観覧者を含む不特定多数の者に対する美術・芸術の涵養にも資するべく、当年度は、「ウォーターフォール」、「Dayfall/Nightfall」、「イグアス」、「星のふる夜に」、「夜桜満開」、「海の幸・山の幸」、「sky」、「タイドウォーター」、「富士朝陽」、「クリフ」、「ザ・フォール」、のほか、昨年度に実施して好評を得た動画作品の最新版を上映するなど、趣向を凝らした内容で、千住博氏の初期作品から最新作までの延べ 50 数点を選抜して展示した。

2. 開館日数、入館者数、障害者の入館料免除対応等

当年度は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日（平成 29 年 12 月 26 日から平成 30 年 2 月 28 日の期間は冬期休館）の期間で、開館日数は 272 日、延べ入館者数は下表の通り 48,669 名であった。なお、入館料を全額免除としている障害者および中学生以下の当年度の入館者数は、障害者が 1,319 名、中学生以下が 1,891 名となり、一定の社会貢献を果たすことができた。

入館者区分		入館人数
有料入館者	一般・個人	38,617
	一般・団体（20 名以上）	3,027
	学生（高校～大学生）・個人	2,777
	学生（高校～大学生）・団体（20 名以上）	819
	前売り券使用入館者等	9
入館料免除対象者	中学生以下	1,891
	障害者	1,319
その他	招待等	210
合 計		48,669

3. 学芸員等による入館者に対する作品解説活動

入館者（主に団体入館者）からの要請があった場合には、当館学芸員による展示作品の解説を、無料で実施し、入館者の美術作品に対する理解の深化に努めた。

（ロ）軽井沢ギャラリー館

当年度は、昨年度の 3 月 1 日から 4 月 16 日までを、公 1－3（ハ）事業との連携として「カルビ～真心少女展～（軽井沢高校 美術部展）」、4 月 20 日から 5 月 15 日までを、公 1－3（イ）事業との連携として「軽井沢『追分写遊会』写真展」、5 月 18 日から 6 月 18 日までを、公 1－3（ロ）事業との連携として「酒井清一（翠酒湖）現代水墨展」、6 月 21 日から 7 月 17 日までを、「金田石城・メダリストの格言展」、7 月 20 日から 9 月 29 日までを、公 1－4（イ）事業との連携として「千住博 版画展」、10 月 2 日から 10 月 30 日までを「I S A K コミュニティー展」、11 月 2 日から 11 月 12 日までを、公 1－3（ハ）事業との連携として「『日本の抒情歌を描く』全国公募展 巡回展」、11 月 15 日から 12 月 25 日までを、公 1－4（イ）事業との連携として「千住博のパブリックアート展」、本年 3 月 1 日から次年度 4 月 15 日までを、公 1－3（ハ）事業との連携として「カルビ『7,8 人のサムライ』展」を開催した。このように、当ギャラリー館では、多角的な展示を行なうことで、軽井沢千住博美術館の観覧と合わせて美術、芸術文化等の振興に広く寄与するべく事業を実施した。

開催期間	催し内容
平成 29 年 3 月 1 日 ～ 平成 29 年 4 月 16 日	カルビ～真心少女展～
平成 29 年 4 月 20 日 ～ 平成 29 年 5 月 15 日	軽井沢「追分写遊会」写真展
平成 29 年 5 月 18 日 ～ 平成 29 年 6 月 18 日	酒井清一（翠酒湖）現代水墨展
平成 29 年 6 月 21 日 ～ 平成 29 年 7 月 17 日	金田石城・メダリストの格言展
平成 29 年 7 月 20 日 ～ 平成 29 年 9 月 29 日	千住博 版画展
平成 29 年 10 月 2 日 ～ 平成 29 年 10 月 30 日	I S A K コミュニティー展
平成 29 年 11 月 2 日 ～ 平成 29 年 11 月 12 日	「日本の抒情歌を描く」全国公募展 巡回展
平成 29 年 11 月 15 日 ～ 平成 29 年 12 月 25 日	千住博のパブリックアート展
平成 30 年 3 月 1 日 ～ (平成 30 年 4 月 15 日)	カルビ「7,8 人のサムライ」展

(ハ) 軽井沢カラーリーフガーデン

1. カラーリーフガーデンの活用

Acer platanoides 'Crimson king' (ノルウェーカエデ 'クリムソン・キング' /カエデ科) や *Betula pendula* 'Golden Cloud' (ヨーロッパシラカバ 'ゴールデン・クラウド' /カバノキ科) などの木本、 *Lysimachia ciliata* 'Fire Cracker' (リシマキア・キリアタ 'ファイヤー・クラッカー' /サクラソウ科) や *Tradescantia × andersoniana* 'Sweet Kate' (トラデスカンティア・アンダーソニアナ 'スイート・ケイト' /ツユクサ科) などの草本等々、他の植物園等では見聞し難いカラーリーフプランツを約 150 種類以上、総数約 6 万株植栽している本ガーデンについては、植栽している主な種類の名前を科名・学名付で表記し、その写真も掲載した銘板を作成してガーデン内の主な繁茂地に設置し観覧者の啓発、教化に努めている。本年度は初期の頃設置した銘板に一部劣化がみられたのでメンテナンスを行った。

(ニ) 平成 29 年度の美術品購入について

美術品購入は、「美術品購入積立資金」計画に基づいて行われている。

平成 29 年度は、総額・86,264,000 円を積立資金より取崩し費消した。

費用の明細は以下の通りである。

- ①千住博『晩夏』(2016 年) 購入費・40,000,000 円、
- ②千住博『湖畔初秋図』『湖畔に蜻蛉図』(1993 年) 購入費・40,000,000 円、
- ③千住博・動画作品『四季』ソフト制作費用・6,264,000 円

Ⅱ 収 1：出版、物品販売、展覧会に関わる表装代行・親睦パーティー、貸室および業務受託の事業計画

[1]収 1-1：出版

定款第4条（事業）第1項第（3）号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する各種出版物の刊行」に基づき、当法人が運営する通信教育講座の学習内容等に関連する以下の検定試験の受験対策用教本等を、受験希望者にカタログで案内するなどして販売した。当事業の計画では、フォトマスター検定関係：1,710冊、デジタル技術検定関係が1,000冊、レタリング技能検定関係で3,831冊であった。実販売数は、フォトマスター検定関係は、1,372冊と目標値を19.8%ほど下回った。過去問題の解答と解説の新規投入が無い年回りということも原因の一つかと思われる。

デジタル技術検定関係は、ほぼ計画通りの1,043冊の販売となった。ラジオ・音響技能検定関係は休止により販売予測を計画しなかったが、6冊の販売があった。

レタリング技能検定関係は4,460部と予定数の16.4%増の実績となった。

関連する当法人の通信教育講座等	出版物の内容・種類と販売部数
文部科学省認定 「写真作品創作塾」 （公1-1） 文部科学省認定 「ハイキングとカメラ技法講座」 （公1-1） フォトマスター検定 （公1-2）	写真・カメラの全般的な知識、技法に関わるフォトマスター検定について、その過去問題の解答・解説を行う受験対策用教本。写真・カメラの全般的な基礎知識、基本技法について学ぶ教本 ＜出版物の種類＞ ①フォト検 過去問題の解答と解説1～5／②フォト検対応要点マスターBOOK／③写真とカメラの基礎知識(改) ＜販売部数＞ 当年度の販売部数は、合計：1,372部 ①フォト検 過去問題の解答と解説1～5：528部 ②フォト検対応要点マスターBOOK：144部 ③写真とカメラの基礎知識(改)：700部
文部科学省認定 「自動車講座」 （公1-1） 文部科学省認定 「オートバイ講座」 （公1-1） 文部科学省認定 「写真作品創作塾」 （公1-1） 文部科学省認定 「ハイキングとカメラ技法講座」 （公1-1） フォトマスター検定 （公1-2）	自動車・オートバイ、あるいはデジタルカメラのデジタルシステムや音響に関係する、デジタル技術検定、またはラジオ・音響技能検定の過去問題の解答・解説等の受験対策用教本。 ＜出版物の種類：デジタル技術検定関係＞ 4級試験問題集／3級試験問題集／2級制御部門試験問題集／2級情報部門試験問題集 ＜出版物の種類：ラジオ音響技能検定関係＞ 4級最新既出問題集／4級受験読本／3級最新既出問題集／3級受験読本／2級最新既出問題集／2級技術教本 ＜販売部数＞ 当年度の販売部数はデジタル技術検定関係で計1,043部、ラジオ音響技能検定関係で計6部、合計1,049部であった。
レタリング講座（公1-1） レタリング技能検定（収1-5）	レタリングに関する用語解説、常用漢字の文字見本帳の役割をはたすもの。下書きから墨入れまで手順を追って、レタリングの技法を詳細に解説したもの。検定試験の各級の範囲や選定基準が網羅されており、レタリング技能検定のすべてが分かる参考書。 ＜出版物の種類＞ 書体サンプル集／実戦レタリング／レタリング技能検定ガイド／文字骨格練習帳 ＜販売部数＞ 書体サンプル集：3,840部。実戦レタリング：339部。レタリング技能検定ガイド：153部。文字骨格練習帳：128部

[2]収 1-2：物品販売

定款第4条（事業）第1項第（5）号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づき、以下の通りに当法人主催の展覧会に関わる出品作品の制作等に必要な用具用材類販売、出品者自身の展示作品を印刷するなどした記念品類の販売、および展覧会会場に設置した売店での用具用材類の販売、ならびに当法人の展示館施設（ミュージアムショップ）における観覧者への関連商品等の販売を行った。なお、日美展に関わる出品希望者または出品者に対する関連商品の販売は、出品希望者に配布する出品資料へのカタログ同封、あるいは入選以上該当者への授賞名通知（審査結果通知）にカタログを添付するなどして購入者を募った。当事業は社会情勢など購買層の購買力・購買意欲に大きく影響されるため、予想を的確に見込むことは非常に難しいが、魅力ある商品の展開を模索し続けることで、一人当たりの購買金額の向上を目指し、収益を改善させ収益性を高めることを目標とする。

	販売品目と販売点数等
日美展「絵画部門」関連商品類（公1-3）	<カタログでの販売品目> 油絵用筆類／油絵具類／キャンバス類／画用液／水彩用筆類／水彩絵具類／水彩用紙／色鉛筆／日本画用筆／麻紙ボード／パステル／パステル用フィキサチーフ／パステル用スケッチブック／汎用スケッチブック／ちぎり絵用和紙類／ちぎり絵用台紙／顔彩類／画用印／絵手紙用筆／絵手紙箋／自作を印刷したパネル／自作を印刷したハガキセット等、約 65 品目 <同販売点数等> 当年度は、購入者が 205 人、販売商品の延べ販売数が 656 点であった。
日美展「水墨画部門」関連商品類（公1-3）	<カタログでの販売品目> 毛筆類／墨／墨液／顔彩／用紙類／印泥付雅印／印泥／印矩／下敷／紙断包丁／ドーサ塗り用刷毛／ドーサ液／わんぱう／膠液／自作を印刷したパネル／自作を印刷したハガキセット等、約 160 品目 <同販売点数等> 当年度は、購入者が 751 人、販売商品の延べ販売数が 1,370 点であった。 <会場に設置した売店コーナーでの販売> 上記に準じた水墨画関連の用具・用材類を中心に雑多取り揃えて会場の一角に売店コーナーを設け、出品者や観覧者の便にも供する目的で販売した。本売店における収入は 659,020 円であった。
展示館施設関連商品類（公1-4）	<販売品目> ポストカード／レターセット／ミュージアムフォルムノート／オリジナル名刺入れ／作品アートタイル／シンボルマークキーホルダー／オリジナル菓子類／美術館カタログレゾネ／美術館 DVD／千住博の各種著作物／カラーリーフガイドブック等、約 400 品目 <販売点数等> 当年度は、販売商品の延べ販売点数は 43,594 点であった。

[3]収 1-3：展覧会に関する表装代行・親睦パーティー

定款第4条（事業）第1項第（5）号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づいて開催した各展覧会に関わる展示作品（入選以上該当作品）の表装代行、および出品者が希望により参加する親睦パーティーの開催に関わる事業を以下の通りに運営した。なお、各展覧会における表装は、額装や軸装などの材質・形状・色柄等の違いなど本来の作品性とは異なる二次的要素によって作品の本質的な鑑賞が妨げられることを防ぐためにその規格と品質、仕様の統一を図る目的で、あるいは出品者が全国各地にわたり在住地域によっては適確な表装手配に困難を来す場合もあること、あるいは不良梱包などにより表装が発送途上で破損する危険を回避し、表装済作品の嚴重梱包・送付に要する出品者負担を軽減するなど、出品者の利便性確保の目的で、事前に表装代行に関わる料金等を出品要項に記載してこれを出品希望者全員に知らせめた上で当法人が信頼できる専門業者を選定して代行依頼した。また、出品者に対しては、展覧会終了後に、リースの場合は作品のみを（総合写真展および日美展「水墨画部門」は裏打ち・マット付の状態）、買取の場合は表装した状態のままで返送した。

(イ) 総合写真展（公1-3）に関わる表装代行、親睦パーティー

表装区分		表装（規定サイズへの紙焼き除く）代行した作品点数
半 切	買取	6 0 5
	リース	3 4 8
全 紙	買取	4 3 7
	リース	1 0 7
合 計		1, 4 9 7
総合写真展の親睦パーティーは会費制により以下の通り実施した		
開催日時：平成 29 年 12 月 5 日（火）12 時～14 時		
場 所：浅草ビューホテル（東京都台東区西浅草 3-17-1）		
参加人数：68 人		
その他事項：上位作品をスライド映写して会場で公表すると同時に審査員による当該作品の講評と解説を行った。		

(ロ) 日美展「水墨画部門」（公1-3）に関わる表装代行、親睦パーティー

表装区分		表装代行した作品点数
F50 号	買取	2
	リース	0
F30 号	買取	1 3 4
	リース	8 9
F20 号	買取	1 3 6
	リース	7 1
F15 号	買取	7 1
	リース	1 5
F10 号	買取	8 7
	リース	2 7
F8 号	買取	1 0 1
F6 号	買取	4 7
半切 1/2	買取	2 2 5
色紙	買取	1 8
合 計		1, 0 2 3
日美展「水墨画部門」の親睦パーティーは会費制により以下の通り実施した		
開催日時：平成 29 年 8 月 10 日（木）12 時～14 時		
場 所：東京プリンスホテル（東京都港区芝公園 3-3-1）		
参加人数：139 人		
その他事項：上位作品をスライド映写して会場で公表すると同時に審査員による当該作品の講評と解説を行った。		

(ハ) 日美展「日美絵画展」(公 1-3)に関わる表装代行、親睦パーティー

表装区分		表装代行した作品点数
F30 号	買取	1 4 5
	リース	6 2
F20 号	買取	1 3 0
	リース	5 2
F15 号	買取	9 9
	リース	2 8
F10 号	買取	2 2 2
	リース	7 4
F8 号	買取	2 1 3
F6 号	買取	2 2 0
F4 号	買取	1 5 9
大色紙	買取	1 8
ハガキ形式	買取	7 1
巻き手紙	買取	3 6
合 計		1, 5 2 9
日美展「絵画部門」の親睦パーティーは会費制により以下の通り実施した		
開催日時：平成 29 年 8 月 11 日（金）12 時～14 時		
場 所：東京プリンスホテル（東京都港区芝公園 3-3-1）		
参加人数：198 人		
その他事項：上位作品をスライド映写して会場で公表すると同時に審査員による当該作品の講評と解説を行った。		

[4]収 1-4：貸室

定款第 4 条（事業）第 1 項第（5）号「第 1 号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」および同第（6）号「その他この法人の目的達成に必要な事業」に基づき、貸室料を前払いで月額 216,000 円（税込）、水道光熱費を実費払いとして当法人の展示館施設(公 1-4)の建物の一部（床面積 162.13 m²）をカフェ用に貸室する事業を運営した。

[5]収 1-5：業務受託等

定款第 4 条（事業）第 1 項第（2）号「第 1 号に掲げる通信教育の分野に関する研究」に基づき、関連通信教育講座の学習指導等に寄与、反映させるべく、「デジタル技術検定」（当法人の自動車、オートバイ、デジタルカメラ関連講座に関連）、レタリング技能検定(当法人の美術品鑑賞・鑑定入門講座、日美展に関連)の試験実施に関わる業務（受験に関わる案内書配布等、試験会場予約、検定委員会運営、試験日の諸対応等）を主催事業として実施した。なお、本事業は公益財団法人実務技能検定協会が主催し、当財団が業務受託していた事業を、平成 24 年度に事業譲渡で継承したため、本項目に分類している。

(イ) デジタル技術検定

1. 試験実施日

平成 29 年 6 月 25 日・日曜日

平成 29 年 11 月 26 日・日曜日

2. 試験会場

各都道府県の本会場及び特設会場(準会場)において実施した。

6 月（本会場 1 4、準会場 2 5、計 3 9 会場）

11 月（本会場 1 4、準会場 2 9、計 4 3 会場）

3. 受験者数、合格者数等

本検定は、情報処理・制御に関する技術をデジタル技術という観点からまとめて評価するもので、当年度は下表の通り、応募者数は 2,555 人、受験者数は 2,293 人、合格者数は 1,492 人の結果であった。なお、受験料は本会場実施団体および延べ 30 名以上の準会場団体の場合は 10%を、一般会場で受験する団体受験の場合は延べ 15 名以上受験で 10%を割り引いて実施した。

受験級	応募者数	受験者数	合格者数
1 級情報	57	46	13
1 級制御	78	69	10
2 級情報	546	472	317
2 級制御	732	644	350
3 級	786	729	534
4 級	356	333	268
合 計	2,555	2,293	1,492

4. 普及活動

工業高校・高等専門学校などの関連する教育機関や企業に受験案内書を送付する他、ポスター掲示、ウェブサイト、新聞広告、専門誌への情報提供等により、受験者を募集した。

5. 検定委員等

検定委員は下記学識経験者により構成し、委員会を開催して、試験問題の作成や可否判定等を行った。

日本大学名誉教授：1名／東京工業高等専門学校名誉教授：1名／

東京工科大学教授：1名／日本大学教授：1名

6. 成績優秀者の顕彰

検定試験の結果が優秀と認められた団体受験または個人受験については、別に定める選考基準に基づき、以下の通り表彰した。1 級制御部門については、合格者は出たものの、文部科学大臣賞の推薦は見送った。

	団体受験に対して	個人受験に対して
文部科学大臣賞	2 団体	5 名(各回 2 級以上各 1 名)
当法人による表彰	2 団体	139 名(各回各級合計)

(ロ) ラジオ・音響技能検定

本検定は受験者減少のため、平成 28 年度から休止している。

(ハ) レタリング技能検定

1. 試験実施日

A 日程：平成 29 年 6 月 4 日（日） B 日程：平成 29 年 6 月 10 日（土）

2. 試験会場

各都府県の本会場及び特設会場(準会場)において実施した。

(本会場 15、準会場 153、計 168 会場)

3. 受検者数、合格者数等

本検定は、美しく表情豊かな文字をデザインする知識と技能を評価するもので、当年度は下表の通り、志願者数 5,998 人、受検者数 5,871 人、合格者数 3,788 人の結果であった。なお、受検料は、自主会場の団体受験の場合は 10%を、一般会場で受検する団体の場合は、5%を割り引いて実施した。

受 検 級	志願者数	受検者数	合格者数
1 級	48	47	2
2 級	728	724	155
3 級	3,663	3,599	2,453
4 級	1,559	1,501	1,178
合 計	5,998	5,871	3,788

4. 普及活動

工業高校・専修学校・専門学校などの関連する教育機関や団体に受検案内書を送付する他、ポスター掲示、ウェブサイト、情報誌等への情報提供等により受検者を募った。

5. 検定委員等

平成 29 年度の検定委員は、下記の専門家により構成し、委員会を開催して試験問題の作成や可否判定等を行った。

デザインオフィス主宰・グラフィックデザイナー：2 名／

デザインオフィス主宰・文字・書体デザイナー：2 名／

会社員・文字・書体デザイナー：1 名／

多摩美術大学造形表現学部デザイン学科講師・

文字・書体デザイナー：1 名／

文筆業：1 名／

6. 成績優秀者の顕彰

検定試験の結果が優秀と認められた団体受検または個人受検については、別に定める選考基準に基づき、以下の通り表彰した。

	団体受検に対して	個人受検に対して
文部科学大臣賞	1 団体	2 名
外部団体の表彰		
当法人による表彰	25 団体	91 名(各級合計)